研究ノート

もう一つのイラク：クルディスタン地域政治の変容
－揺らぐ二大政党支配とゴラン運動の挑戦－

木我　公輔

はじめに……2
１．KRG の形成……2
（１）KRG の構造……2
（２）戦略合意：KDP と PUK による権力分有……4
２．ゴラン運動の挑戦……7
（１）ゴラン運動の誕生……7
（２）ゴランの政治参加……9
（３）ゴラン－KDP 関係の悪化とゴランの孤立……12
３．クルドの春？……16
（１）KDP と PUK の力関係の変化……16
（２）スレイマーニーヤでの反体制デモと与野党の対応……17
おわりに……20

はじめに

2005 年の統一宣言を経て、2006 年 2 月クルディスタン地域政府（Kurdistan Regional Government, KRG）が発足した。その時までクルディスタン地域[1]は、マスウード＝バルザーニー（Mas`ūd Barzānī）率いるクルディスタン民主党（Kurdistan Democratic Party, KDP）[2]が支配するエルビル県とドホーク県、ジャラール＝タラバーニー（Jalāl Ṭalabānī）率いるクルディスタン愛国同盟（Patriotic Union of Kurdistan, PUK）[3]が支配するスレイマーニーヤ県に分裂していた[4]。従来わが国では、クルド独立問題やイラク中央政府との関係という観点からこの地域を論ずることが多かった。本稿は、イラク・クルドの他者（中央政府、周辺諸国、米国）との関係やイラク政治を理解する上で同地域内部の政治プロセスをまず理解すべきとの考えから、KRG 発足後の同地域の政党政治に注目し、(1) KRG の形成、(2) 野党ゴラン運動の挑戦、(3) 今年 2 月のデモ以降の二大政党支配の動揺を中心に考察し、日々変動する同地域情勢を理解する一助としたい。

1．KRG の形成

（1）KRG の構造

KRG は、1992 年以降のクルド自治政府時代の法律と 2003 年以降の立法によっ

1) 本稿では「クルディスタン地域」は、エルビル、スレイマーニーヤ、ドホークの 3 県で構成されるイラク憲法上の行政単位「地域（Iqlīm）」を指す。その人口は約 470 万人（2010 年）。
2) 1946 年イランで結党。民主・民族的政党と自らを規定し、人権、社会正義、個人の自由、クルドを含む諸民族の民族自決権を信奉。
3) 1975 年シリアで結党。社会主義的性格が強い。党是はクルド人（とイラク）の自決、人権、民主主義、平和。
4) 2003 年以前のクルド自治区の政治状況については以下の論文を参照。勝股郁子「イラク－地域モデルとしてのクルディスタン」『中東研究』498 号、2008 年、52-53 ページ。Michael Eppel, “State Building and Social Ferment in Kurdistan”, *Journal of South Asian and Middle East Studies*, vol. 31, No.4, 2008, p.71; Gareth R. V. Stansfield, *Iraqi Kurdistan: Political Development and emergent democracy*, Routledge, 2003, pp.96-102.

てその法的な基盤がつくられている。クルディスタン地域憲法草案は、2009 年 6 月に議会を通過したが、住民投票による承認を残し未発効のため、1992 年の選挙法、内閣法、2005 年の KRG 大統領法、2007 年の司法権力法、議会内規等の法的文書がこの構造を規定している[5]。そこでは、KRG 大統領と KRG 首相率いる内閣が行政権を、イラク・クルディスタン議会（Iraqi Kurdistan Parliament, IKP、以下、議会）[6]が立法権を、司法評議会（破毀院長官等の裁判官と検事総長から構成される諮問機関）と破毀院が司法権を担っている[7]。KRG 大統領と議会は、任期 4 年で有権者の直接投票によって選出[8]される。KRG 大統領は再選可能であり、議会の定員は少数民族枠 10 を含む 111 である。KRG 大統領が KRG 首相候補を指名、この候補者から提出された閣僚名簿が議会により信任されて政権が発足する。

この KRG 大統領、KRG 首相、議会 3 者のうち、議会が最も強い権力を与えられている。KRG 大統領は、公務員特別職、軍・治安関係将校、ペシュメルガ[9]部隊の司令官、副司令官の任命権を有する他、議会が可決した法案への拒否権を持つが、議会は再可決によって拒否された法律を発効させることができる。KRG 大統領が議会を恣意的に解散することは不可能である[10]。逆に議会は議員 3/4 の賛成で KRG 大統領を解任できる。KRG 大統領は緊急時に政令によって立法権を行使できるが、IKP 議長と KRG 首相の同意が必要になる。KRG 首相は KRG 大統領の下に位置づけられ、法案提出及び公務員の任免等の権限を有する内閣を率いる。議会は内閣に対する質問権を持ち、1/4 の議員によって内閣もしくは閣僚に対する不信任案の発議ができ、議会が不信任に賛成した場合前者であれば内閣総辞職、後者であれば当該閣僚は辞任しなければならない。首相を含む閣僚を罷免できるのは議会だけで、

5) これらの法律は同地域内でのみ有効。*IKP website* [http://www.perleman.org]とイラク法令データベース [http://www.iraq-ild.org]でこれら法令のアラビア語テキストを閲覧可能。
6) 2009 年にクルディスタン地域議会（Kurdistan National Assembly, KNA）から改称。
7) 本稿では司法権に触れないが、KRG 大統領が裁判官、検察長、検事の任命権を持ち、司法権の独立性が十分でないことを指摘しておく。
8) バルザーニーKRG 大統領の 1 期目は例外的に議会による選出であった。
9) ペシュメルガは、クルド人軍事組織の総称、クルド語で「死を恐れぬ者」の意。もとは山岳地帯でイラク軍とのゲリラ戦、KDP・PUK 間の内戦を戦った戦士たちを指した。
10) 議会解散は、IKP 議員過半数の辞職の場合、最初の召集から 45 日間定足数を満たせない場合、内閣を 3 回連続で不信任とした場合の他、議員 2/3 の同意による自主解散の場合がある。

KRG 首相が閣僚を罷免できるとの規定が見当たらないことは興味深い。内閣を倒す方法はもう一つあり、内閣法は、閣僚の過半数の辞任もしくは二大政党の連立政権の場合には閣僚一人の辞任をもって、内閣総辞職と見なすとしている。このようにクルディスタン地域の政治制度は、KRG 大統領あるいは KRG 首相の独裁化を議会が防ぐ仕組み、二大政党の一方がいつでも倒閣できる仕組み、換言すると拒否権を内包しており、議会でほぼ同数の議席を持つ二大政党による支配を前提としている。この仕組みは、内戦により根強い相互不信に陥った二大政党が一緒にやっていくための知恵である。

（2）戦略合意：KDP と PUK による権力分有

2005 年 1 月 30 日、13 年ぶりに議会選がクルド 3 県で実施され、KDP と PUK が組んだ統一リストが 90%近い得票で 111 議席中 104 議席を占める多数派となった。4 月 6 日、タラバーニー PUK 書記長が、イラク移行政府の大統領にクルド人として史上初めて選ばれた。6 月 12 日、バルザーニーKDP 総裁が議会によって初代 KRG 大統領に選出された。その後も両党は協議を続け、2006 年 1 月 23 日、クルディスタン地域における権力の分有に関する「戦略合意」[11]を発表した。

この合意は、①PUK が KRG 副大統領候補を推薦、KDP が KRG 首相と IKP 副議長、PUK が KRG 副首相と IKP 議長を 2007 年末まで担う、2007 年以降に PUK から KRG 首相を、KDP から議会議長を出し、ポストを入れ替える、②内務、司法、教育、保健、社会問題、ワクフ、水資源、運輸、建設、計画、人権の 11 省を PUK に、財務、ペシュメルガ問題、高等教育、農業、文化、電力、天然資源、地方自治体、青年・スポーツ、クルディスタン地域外問題の 10 省を KDP に割り振る、③財務省、ペシュメルガ問題省、内務省、司法省については、エルビルとスレイマーニーヤに 2 つの省を存続させ、1 年以内に統一を実現する、④2007 年から予算を統一し、人口比と統一政府内の合意に基づき配分する、⑤警察、治安機関（アサーイシュ）の統一は 2

11）*Al-Madā*, 23 January 2006.

年かけて行う、⑥タラバーニーをバグダッドの中央政府の要職（＝大統領職）に推挙するという内容であった。

2005 年 12 月のイラク国会選挙後に改めてイラク大統領を選び直すことになっていたが、中央での政治プロセスが遅れ、この戦略合意に基づく政権樹立も先送りされた。2006 年 4 月にタラバーニーがイラク国会で大統領に選出された後、ネチルヴァン＝バルザーニー（Nechirvān Barzānī）[12]を首相とする政権が発足したのは 5 月 7 日であった。この政権は 27 省、閣僚 42 名からなる大所帯で、KRG 大統領、KRG 首相、IKP 議長、それぞれの副ポストを二大政党で分けあい、先述の③にある主要 4 省には両党から 2 名の大臣がつく形で権力を分有した[13]。戦略合意通りであれば、2007 年末に PUK 主導の政権ができるはずであったが、2008 年 1 月 5 日、ネチルヴァン続投の両党合意が発表された。ルスール（Kosrāt Rusūl）KRG 副大統領は、戦略合意で 2 年とされていた首相任期は今後 3 年間になると述べ、現政権の任期が 2009 年夏まで続くとの認識を示した[14]。

2009 年 8 月、前月の選挙で有権者から選ばれたバルザーニーKRG 大統領は PUK のバルハム＝サーレハ（Barham Ṣāliḥ）前イラク副首相に組閣を託し、10 月 28 日、新政権が発足した。3 年前の戦略合意に沿ってようやく政権交代が行われたのである。新政権は 19 省、閣僚 25 名とスリム化し、留任閣僚は 3 名のみと大幅な入れ替えとなった。この再編により、10 省が合併、3 つの省と 13 の国務相職が廃止された。KRG の構成が大きく変わった（次頁図参照）ため、首相と副首相を二大政党から出すのは戦略合意通りだが、前回統一できなかった内務相、財務相等主要 4 ポストについては戦略合意と逆の割り振りとなり、二大政党が 7 ポストずつ[15]獲得、残りを少数政党枠と無所属のテクノクラートに割り当てた。

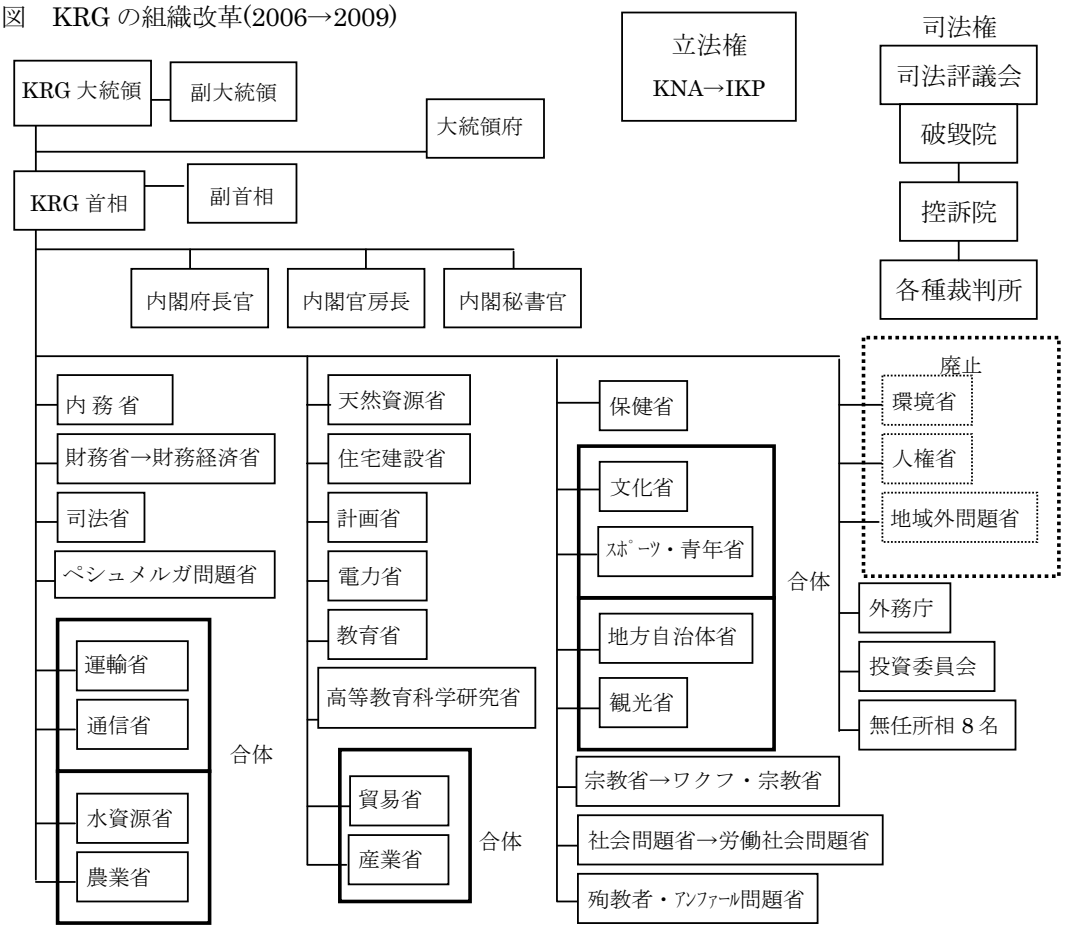
12）ネチルヴァンは 1966 年生れ。バルザーニーの甥にあたり、病死した父の後を継いで政治家となった。23 歳で KDP 政治局員、30 歳で KRG 副首相（KDP 支配地域）に就任。

13）KDP は農業省、地方自治体省、文化省、域外問題省、外務庁、PUK は運輸省、住宅建設省、高等教育科学研究省、人権省を得た。

14）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 10 January 2008.

15）KDP は内務省、司法省、教育省、農業・水資源省、計画省、観光・地方自治体省、PUK は財務経済省、ペシュメルガ問題省、保健省、労働社会問題省、住宅建設省、高等教育研究科学省、殉教者・アンファール問題省を得た。

図　KRG の組織改革(2006→2009)



【出典】KRG ウェブサイトから筆者作成。

主要 4 省の統一については、2007 年 2 月 6 日に司法省が統一されたが、残る 3 省の統一は 1 年の期限を過ぎても実現しなかった。2008 年 8 月、両党は 3 省統一に再度合意したが、実行が伴わなかった。翌年 4 月 6 日にも 3 省統一を宣言したが、財務省の統一は、KDP 側財務相が国外療養中であることを理由にサーレハ政権発足まで実現しなかった。[16] 両党配下のペシュメルガ部隊の統一も先送りされた[17]。サーレハ新首相は、議会で「2 つの政権が存在する状態を最終的に終わらせるために

16) *ʻAṣwāt Al-ʻIrāq*, 7 August 2008; *Radio Sawā*, 6 April 2009; *Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 7 April 2009.
17) *Al-Ḥayāt*, 3 March 2009.

軍・治安・財政機関の統一に政府は邁進する」[18]と統一が未完成であることを認めた。2010 年 1 月 28 日、両党は、それぞれのペシュメルガ部隊司令部と 4 個師団の統一を発表[19]、10 月に更に 8 個師団の統一が決定された[20]。二大政党は権力を分有しつつ、KRG 統一を進めてきたが、軍事力と財布の統一は未だ道半ばである。

２．ゴラン運動の挑戦

（１）ゴラン運動の誕生

2006 年 12 月 5 日、PUK の No.2 ナウシルワーン＝ムスタファー＝アミーン（Nawshirwān Muṣṭafā ‘Amīn）が、突如副書記長を辞任した。党創設者の一人で戦後バグダッドに PUK 事務所を構えて暫定統治法とイラク憲法の制定交渉に従事した大物幹部ナウシルワーンの辞任は PUK にとり大きなインパクトがあった。

PUK は 2001 年の党大会以来党指導部の交替がなく、書記長が党本部内の広報、財務等全ての組織のトップを兼ね、他の幹部は次席ポスト以下という、一極集中型の構造だった[21]。PUK 政治局員 8 名が書記長の権限縮小を要求する[22]等しばしば党内の不満が表面化していた。また、タラバーニーが党創設世代のメンバーを公職につけず、ルスール、サーレハのような比較的若い世代[23]を厚遇していたこともこの離反劇の一因と見られる。ナウシルワーン自身は「個人商店から組織政党へ党の構造を変えようとし、党の透明性確立、選挙による党幹部人事の実現を試みたが失敗

18）*‘Aṣwāt Al-`Irāq*, 28 October 2009.
19）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 29 January 2010.
20）本年 1 月時点で、ヤーウェル参謀総長が 4 個師団の統一が終わり、本年末までに更に 8 個師団の統一を進めると発言。ペシュメルガ問題相による 20 万人という数字を踏まえると、1 個師団 1.5 万人としてもまだ半分も統一されていないことになる。また、ペシュメルガ部隊の予算も統一されていない。*PUKmedia*, 7 January 2011; *Rudaw*, 17 January 2011.
21）Stansfield, *op.cit.*, p.113.
22）“Iraq: Independent daily reports rift within Kurdish PUK leadership”, *Asia Africa Intelligence Wire*, October 21, 2004.
23）ナウシルワーンは 1944 年生まれ、サーレハは 1960 年生まれと一回り以上離れている。PUK の世代対立は、今年 8 月にも閣僚経験者等古参幹部 10 名が抗議の辞任をする等党の弱体化を招いている。*AK News*, 8 August 2011.

し、離党を決めた」[24]と語っている。

ナウシルワーンは、2007 年 3 月にスレイマーニーヤでニュースサイト Sbeiy.com を開始、週刊紙ルズナーマ、衛星放送 KNN 等を次々と立ち上げ、後にタラバーニーと PUK を批判する有力な手段となったメディアグループを築きあげた[25]。2009 年 4 月、ナウシルワーンは、7 月の議会選に独自のリストで臨むと宣言して政界復帰した[26]。同年 5 月に独立高等選挙委員会（Independent High Electoral Commission, IHEC）に届けられた、クルド語で「変革」を意味するゴラン（Gorān）という名のリストは、後にゴラン運動と呼ばれるようになった[27]。

女性 IKP 議員のクウェイスターン＝アブドゥッラー（Kuwaistān `Abdullāh）、スレイマーニーヤ県知事（当時）ダーナー＝アフマド＝マージド（Dānā Aḥmad Mājid）のような PUK 離脱組、元 KDP 幹事長ジャウハル＝ナーミク（Jawhar Nāmiq）、1966 年生まれで、独立系ハウラーティー紙、ルズナーマ紙編集長だったアドナーン＝オスマーン（`Adnān Othmān）、ルズナーマ紙編集者のアーザード＝チャーラーク（‘Āzād Chālāk）等のメディア出身者、1970 年生まれの文学博士でスレイマーニーヤ大教授のシャホー＝サイード（Shāhō Sa`īd）のような知識人たちがナウシルワーンの周りに集まった。これらの人材は二大政党に比べて相対的に若い。例えばゴランに属する IKP 議員の平均年齢は 39.8 歳である[28]。2009 年 3 月の選挙法改正で被選挙権の年齢下限が 30 歳から 25 歳に下がり、若者の政治参加の機会が拡大したこと、二大政党とともに民族闘争を経験してきた世代とは異なり現状に批判的な若者をゴランが引きつけたこともこの若さの原因であろう。いずれにせよ、このような二大政党を離れた、あるいは縁遠い人材がゴラン運動の担い手となったのである。

24）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 8 December 2007.
25）タラバーニーは、シンクタンクを創設する約束でナウシルワーンに提供した資金と土地が、テレビ局と新聞に使われたと回顧している。*KurdIU.Org*, 6 June 2011.
26）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 11 April 2009.
27）英語で”Change Movement”、アラビア語で”Ḥarakat al-Taghyīr”と呼ばれる。
28）議会及びイラク国会のウェブサイト掲載の生年から各選挙実施年で計算。2005 年の議会選挙での KDP 議員 38 名の平均年齢は 49.3 歳、PUK は 48 歳だった。

（2）ゴランの政治参加

2009 年 7 月 25 日、議会選挙が拘束式名簿比例代表制[29]で行われ、投票率は 78.5%であった[30]。IHEC が選挙の実施主体となり、国際選挙監視団も加わって、クルド 3 県の他アンバール、バグダッド、ニナワの 3 県で投票が行われた。この選挙でゴランは、定数 111 議席のうち 25 議席を獲得し、PUK の本拠地であるスレイマーニーヤでは与党 KDP と PUK のクルディスタン・リストを上回った。ゴランは、クルディスタン・リストに次ぐ議会勢力となった。二大政党は 2005 年選挙で統一リストを組んだクルディスタン・イスラーム連合（Kurdistan Islamic Union, KIU）等の離脱のため 26 議席減で選挙に臨み、選挙で更に 19 議席を失い、過半数ぎりぎりの 59 議席となった。ゴランの躍進には様々な要因があるが、「政党と国家権力の分離（党政分離）、独立した高潔・公正な司法権力の構築、KRG 予算の透明化、一層の社会正義実現」、「現在は政治、社会、経済、文化といった面での内部改革が最優先される段階」[31]とのゴランによる改革の主張が、市民生活の隅々まで及ぶ二大政党による支配[32]に不満を感じる層を惹きつけた、更に 2008 年以降の世界的な景気低迷の影響による、海外投資縮小、物価上昇による貧富の差の拡大等ネチルヴァン政権による経済政策のマイナス面の実感が野党支持の基礎となった[33]という要因が考えられる。

選挙後の新政権づくりで、ゴランと「奉仕と改革」[34]リストはサーレハの首相候

29）この制度では、全有効票を総議席数で割った選挙係数で各名簿の得票を割り、各党派の獲得議席を算出、獲得議席数に応じて名簿掲載順上位から当選者が決まっていく。名簿内の候補者を恣意的に当選者にする操作は 2004 年の法改正で出来なくなった。イラクの 2009 年 1 月の県議会選、2010 年 3 月の国会選挙では候補者個人の得票数の多寡によって名簿内順位を決めるより民主的な非拘束式名簿比例代表制が採用された。候補者個人の得票が当落に影響する後者の方式は、現職国会議員たちに不人気だったが、国連の働きかけに加え、世論の反応を気にして後者を採用する選挙法改正に賛成せざるを得なかった。

30）*LA Times*, 27 July 2009.

31）ナウシルワーンのテレビ対談での発言。”Liqā’ al-Yawm”, *Al-Jazīrah*, 10 June 2009.

32）例えば、二大政党は、月々の手当や土地の提供、融資や就職の斡旋を学生や職能組合に行う等している。Denise Natali, *The Kurdish Quasi-State: Development and Dependency 0n Post-Gulf War Iraq*, Syracuse University Press, 2010, pp.116-119.

33）*ibid.*, p.101.

34）KIU とクルディスタン・イスラーム集団(Kurdistan Islamic Group, KIG)、クルディスタン社会党等の左派政党から成るリスト。

補指名に反対、10 月 4 日、ナウシルワーンはサーレハとの会談で、ゴランがサーレハ政権にも、次の国会選挙に向けた KDP・PUK 主導の政党連合にも参加しないと伝えた[35]。ゴラン、KIU、KIG の 3 野党は独自に選挙を戦うことになった。11 月 12 日、二大政党は、イラク国会選挙に向けてイスラーム主義者から共産主義者まで 12 の小政党が参加するクルド同盟（Kurdistan Union）の結成を発表した。この頃から、ゴラン関係者に対する襲撃事件が頻発するようになった。11 月 7 日、ゴラン幹部が自宅前で襲撃され負傷、12 月 4 日にゴラン・メンバーが銃撃で負傷、12 月 19 日に別のメンバーが銃撃で負傷、12 月 25 日に新ハラブジャ市でメンバーが襲撃され死亡。年明けの 1 月 6 日、ナウシルワーンは、一連の襲撃の責任はタラバーニーと PUK にあると指摘し[36]、2 月 9 日には、ゴラン支持者の KRG 内務省とペシュメルガ部隊からの追放と KRG 教育省でのゴラン支持者を標的にした人事異動について語り、PUK による迫害を示唆した[37]。

このようにゴランと PUK の対立が強まる状況で 3 月 7 日のイラク国会選挙を迎えた。クルド 3 県での投票率は約 76.3%だった。クルド系政党はイラク全体で 25%近い得票率であったが、獲得議席は定数 325 議席中 57 議席と 17.5%を占めるに留まった。クルドの分裂が死票を増やし、議席を減らしたのは明白だった。クルド同盟は 10 議席減の 43 議席と振るわず、国政で 3 位から 4 位の勢力に後退した。一方、国政初進出のゴランはドホーク県では議席 0 だったが、スレイマーニーヤ県で 6 議席、エルビル県で 2 議席を獲得した。前年の議会選と比べ、クルド 3 県でクルド同盟は約 7 万票伸ばしたのに対し、ゴランは約 3 万票減らし、スレイマーニーヤ県でもクルド同盟の後塵を拝した。投票日当日、ナウシルワーンは「治安部隊が二大政党に従属しており、今回の選挙が公正で透明であったとは思わない」[38]と不平を鳴らした。とはいえ、国政初参加のゴランは善戦した方であろう。有権者は国政では

35）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 17 September 2009; *AKI News*, 19 August 2009. *Al-Ḥayāt*, 16 September 2009; *Al-Ḥayāt*, 5 October 2009.
36）*Niqāsh*, 8 January 2010.
37）*ʻAṣwāt Al-ʻIrāq*, 9 February 2010.
38）*Reuters*, 7 March 2010.

実績のある 2 大政党を選好したともいえよう。なお、後述するが、この選挙は二大政党間の実力差を示すという思わぬ結果をもたらした。

国会選挙後、ゴランのクウェイスターン IKP 議員は、「ゴラン関係者が迫害されているのにバグダッドでクルド同盟の立場を支持するとは言えない、タラバーニー大統領の再選問題はクルド人全体にかかわる問題であり、ゴランを含む各政治勢力との交渉が必要」と述べ、クルド同盟との協力について曖昧な態度をとった。

ゴランを取り込もうとする動きは KDP から始まった。3 月末、ゴラン系のルズナーマ紙のインタビューに応じたネチルヴァン前 KRG 首相は「我々はバグダッドでの立場の統一を追求しているが、（ゴランを支持する）人々の糧道が断たれていることを知りつつ、野党に我々と一緒になってくれと求めることはできない」、「地域の中で野党の声を耳にすることはよいこと。議会内での野党の活動はよく組織されている」と述べて秋波を送った[39]。4 月 3 日、バルザーニーは、サーレハ同席の下、3 野党の代表者たちと会合し、クルディスタン地域における政治的懲罰の廃止、各党の独立性を保障しつつイラク国会で統一ブロックの結成、連立政権樹立交渉のための代表団結成、タラバーニーのイラク大統領続投支持の 3 点で一致したと発表した。翌 4 日、ナウシルワーンも、クルド同盟への合流の条件として、ゴラン支持者の公職追放問題の解決を挙げ、クルド同盟にメッセージを送った。[40] 13 日、2010 年度 KRG 予算案に「政治的に懲罰された公務員の行いの正しさが証明された際には、全ての者の給与を支払う」という一文が全会一致で盛り込まれた[41]。公職追放問題解決についてのバルザーニーと議会のコミットを受けて、17 日、クルド同盟と 3 野党の代表者がバルザーニーと会談し、4 政党の連合に合意した。

新たな政党連合の意思決定のメカニズムについて、ゴランのシュルシュ＝ハージー（Shursh Ḥājī）国会議員は、連合を国会の会派ではない政治的な連合とすること、連合の代表を輪番制とすること、各党派のコンセンサスで意思決定をすること、

39）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 31 March 2010.
40）*Kurdistan Region Presidency* [http://www.ikp.org], 4 April 2010; *Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 4 April 2010.
41）*IKP Website*, 13 April 2010.

参加各派に拒否権を与えることを条件として挙げた[42]。このクルド諸派の連合の運営方法と連立交渉のための基礎文書について各派の協議が約一月続き、5 月 9 日、バルザーニーは、クルディスタン・ブロック連合（Kurdistan Blocks Alliance, KBA）の結成を発表し、イラク国政レベルでのクルド諸派の統一にこぎつけた。バルザーニーは結成声明で KBA を集団指導とすること、コンセンサスによる意思決定を行う旨述べ、ゴランの条件に二大政党が応じることを明らかにした。

二大政党の譲歩の理由は何か。クルドの分裂は、来る連立交渉でシーア派やスンニー派に対してクルド同盟を不利な立場に置き、バルザーニーのクルドを代表する指導者としてのイメージに傷をつける。ゴランによるタラバーニー続投への反対も戦略合意を危うくしかねない。このような懸念が、二大政党に大幅な譲歩をさせたと考えられる。

ゴランもシーア派やスンニー派からクルドを代表する連立相手として認めてもらえる可能性は皆無であり、折り合う余地があった。ゴランは、バグダッドでの歩み寄りで自派の条件を二大政党に呑ませることに成功しただけでなく、地元で実利を得た。KBA 結成から 3 週間後の 5 月 30 日、ゴランは 4 月に申請していた政党認可が KRG 内務省からおりたと発表した[43]。政党となることで、二大政党にその存在を認めさせるだけでなく政党助成の対象となるという実利もある。ゴラン運動は結党から約 1 年で KRG 公認の政党となった。

（3）ゴラン－KDP 関係の悪化とゴランの孤立

ようやくできたクルドの団結であったが、5 ヶ月後、KBA はゴランの脱退によりあっさりと崩壊する。6 月から 10 月までの間のゴランと KDP の関係悪化が原因である。

5 月 4 日、バルザーニー一族（の腐敗）をメディアで批判していた 23 歳のサルダ

42）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 19 April 2010.
43）ゴランが政党登録をせず IHEC に登録された選挙リストに留まったのは、人々が二大政党に属したまま運動に参加できるよう配慮した面がある。*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 2 April 2010; *Kurdish Globe*, 4 June 2010.

シュト＝オスマーン（Sardasht Othmān）がエルビルのサラーハッディーン大学構内で白昼拉致され、2 日後に域外のモースルで遺体で発見されるという事件がおきた[44]。8 日、サルダシュトを守れなかった KRG を非難する抗議デモがスレイマーニーヤで行われた。KRG もこの事件を非難し、全力で捜査を行うよう命じたと発表した。ゴラン系メディアは、KDP、特にマスルール＝バルザーニー安全防護庁長官の事件への関与を指摘した[45]。これに対し、バルザーニーKRG 大統領は、5 月 29 日に議会で行った演説の後半で、「事実を歪曲し、クルド人の人格を中傷するのは犯罪」、「クルドの若者の血を利用して政治的得点をあげようと事件を利用する者がいた」[46]と反論した。この発言に対し、ゴランは次の声明を出して再反論した。

「我々はこれまで議会内規の原則を尊重して KRG 大統領に質問したり、説明を求めたりしてこなかった。しかし、KRG 大統領の演説の大部分が、サルダシュト殺害の反響について語るのに費やされたことに我々は注目している。…自由の悪用を言うのであれば、権力の悪用にも言及することが期待される」[47]。

更に 8 月、KDP は、10 億ドルの補償を求めてゴラン系ルズナーマ紙の責任者らを名誉毀損で告訴[48]、ゴランと KDP の関係は更に悪化した。8 月 4 日、ゴランは政治的懲罰の禁止、公職追放問題解決、ペシュメルガ部隊統一等を含む「12 点改革案」を KRG に突きつけた[49]。

この間もクルドの結束はバグダッドでは保たれていた。6 月 13 日、KBA 交渉団がバグダッド入りし、各勢力との対話を開始した。KDP のロシュ＝シャーウィース（Rushu Shāwīs）副首相率いる KBA 交渉団に、ゴランからもサルダール＝アブド

44）調査委員会は、被害者が関係を持っていた武装民兵グループのアンサール＝イスラームによって被害者が殺害されたと結論した。同グループは関与を否定する声明を出している。
45）*Īlāf*, 15 May 2010. マスルールは、バルザーニーの息子。声明で事件への関与を否定した。
46）*IKP website*, 29 May 2010.
47）*Al-Sharq Al-'Awsaṭ*, 31 May 2010.
48）KDP がイランへ原油を密輸しているとの米紙の報道のキャリーが原因。KRG はイランへの原油の密輸出を否定したが、ハウラーミーKRG 天然資源相とネチルヴァンは密輸を否定しつつ、ナフサ等の石油派生品のイランへの輸出が存在し、これまでに 2 億から 2.5 億ドルの利益が KRG に入っていたことを認めている。*New York Times*, 8 July 2010; *Ruznāma*, 13 May 2010.
49）*Al-Sharq Al-'Awsaṭ*, 23 October 2010. 同改革案は 10 月に公表された。KBA 脱退前のこのタイミングでの公表は、二大政党へ圧力をかけようとしてのものであろう。

ゥッラー（Sardār `Abdullāh）とチャーラークの両国会議員が参加した。KBA は憲法第 140 条の適用、クルド人大統領、クルディスタン地域の石油開発契約問題解決、ペシュメルガ予算の計上等の 19 点ペーパーを作成して連立交渉の基礎として各勢力に提示したが、首相職をめぐる対立のため連立政権交渉自体が膠着状態に陥ってしまった。9 月 16 日、バルザーニーは、融和、配分、パートナーシップの 3 原則からなり、各政治ブロックのトップが集まる円卓会議開催、首相権限の縮小、全政治ブロックの政権参加等を目指す「バルザーニー・イニシアティブ」[50]を KBA 交渉団に示し、このイニシアティブに基づき KBA は各勢力と交渉を再開した。

しかし、エルビルではクルディスタン地域高等選挙委員会（Kurdistan High Election Commission, KHEC）法案をめぐり与野党が激しく対立[51]、KBA にもその影響が及びつつあった。10 月 9 日、3 野党は KBA に対する態度を見直すことに合意した[52]。同日、ゴランの交渉団員チャーラークは、KHEC 法案を「民主主義にマイナス」、「民意の押収」と批判しつつも、KBA からの離脱は望んでいないと発言した[53]。21 日、チャーラークは、同法案をめぐる対立が解消されるまで、ゴランは KBA の加盟権を棚上げし、KBA が世俗派のイラーキーヤ、シーア派主導の国民同盟等と持つ会合をボイコットすると声明した。チャーラークは、同時にイラーキーヤと裏交渉をする指導者がいるとバルザーニーを暗に批判した。[54] 10 月 29 日、ついにゴランは、与党が KHEC 法案を強引に通そうとしたこと、改革を実施しようとしないことを理由に KBA からの脱退を発表した。KIU と KIG は、KBA 残留を宣言、野党の足並みは揃わなかった。ゴランの KBA 復帰に向け、11 月の間、ゴラ

50）*Al-Sharq al-Awsaṭ*, 19 September 2010; *Al-Taākhī,* 19 September 2010; *AK News*, 21 September 2010.

51）KHEC は 1992 年選挙法第 6 条で規定。クルディスタン地域の選挙管理は、2004 年の法改正では IHEC、2009 年では KHEC 所管とされ、中央と地方の綱引きの種となってきた。ゴランは、KHEC 自体には反対せず、同理事会の脱党派性、意思決定機構について修正要求をしていた。*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 26 October 2010; *ʻAṣwāt al-`Irāq*, 27 October 2010.

52）*ʻAṣwāt Al-`Irāq*, 9 October 2010.

53）*Ibid.*

54）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 21 October 2010.

ンと二大政党の間で協議が続けられたが、結果は出なかった[55]。その間に、タラバーニーがイラク国会で再度大統領に選ばれた。

同じ頃 KHEC 法案同様に対決型法案である示威行動規制法案の審議が始まった。デモを許可制とするこの法案に対し、ゴランは、反政府デモの許可が下りるはずがない、デモでの事故を理由に主催者を懲役刑に処す条項は厳罰過ぎる、NGO によるデモは届出制にすべきであると主張した。3 野党の審議拒否の中、わずか 3 日の審議でこの法案は成立した。[56]

12 月 6 日、ゴランは、政権参加に向け最大勢力の国民同盟と単独で交渉を開始することを決定したと発表した[57]。この時点でゴランの KBA 復帰は完全に消えた。12 日、ゴランは、副首相ポスト、その他にサービス系閣僚ポスト 2 もしくは重要閣僚ポスト 1 を得る権利があると主張した[58]。しかし、クルド同盟がシャーウィース現副首相の続投を明言しており、ゴランがクルド同盟を押しのけてこのポストを得るのは、非現実的な話であった。21 日、バグダッドで第二次マーリキー政権が発足、KBA は 8 閣僚ポストを獲得、KBA を飛び出したゴランは、イラク国政でも下野する苦い結末となった[59]。

KBA 崩壊の直接の引き金は、KHEC 法案、示威行動規制法、ゴランの「12 点政治改革案」といった政策上の対立である。しかし、その背景にはゴランと KDP の関係悪化があった。若い世代がデモという形で怒りをあらわにしたサルダシュト殺害事件、公職追放問題への対応で、ゴランとしては支持者を失望させるわけにはいかず、二大政党、特に KDP に厳しい態度をとらざるを得なかった。また、新政権樹立に向けバルザーニー・イニシアティブを提唱し、各派の指導者たちがエルビル詣でを繰り返すこの頃になるとクルド同盟もゴランにこれ以上譲歩する必要を感じ

55) *Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 6 and 22 November 2010; *AK News*, 9 November 2010; *Aṣwāt al-ʿIrāq*, 28 November 2010.
56) *Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 6 November 2010; *IKP website*, 1-3 November 2010.
57) '*Aṣwāt Al-ʿIrāq*, 6 December 2010; *Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 8 December 2010.
58) '*Aṣwāt Al-ʿIrāq*, 12 December 2010.
59) KBA は副首相、外相、貿易相、保健相、女性問題相等 8 ポストを 4 人で兼任し、クルド系野党にポストを譲る余地を残した。翌年 2 月 22 日に閣僚 3 名が KBA から指名され、兼任は解消。クルドは女性問題相をシーア派に譲った。

ていなかったであろう。やむをえない決定であったにせよ、バグダッドに新政権ができる目前での KBA 脱退という決定については、ナウシルワーンは PUK に対する個人的怒りをいい加減に克服すべきとの批判的な意見も出て[60]、ゴランの国政参加の意義を失わせかねないものに見えた。

3．クルドの春？

（1）KDP と PUK の力関係の変化

ゴランの出現は、二大政党の均衡に大きな影響を与えた。1992 年の議会選で両党の得票は拮抗し、50 議席ずつ折半した。内戦を経て、KDP はクルド 2 県とイブラヒーム・ハリール地区[61]を確保して優位に立った。2005 年の選挙を両党は同一リストで戦い、ほぼ同数の議席を得た[62]。2009 年の選挙はスレイマーニーヤ県での票をゴランに食われ、PUK の貢献度が下がったが、やはり議席を分け合った。だが、翌年の国会選挙は、KDP27 議席に対し、PUK は 13 議席に留まった[63]。候補者個人の得票が当選順位を決める非拘束名簿式導入で議席の均等配分が難しくなった結果である。

二大政党の実力差が顕在化したことで、KDP の PUK に対する姿勢に変化が見られるようになった。国会選挙から程なく KDP 系週刊誌『ゴラン』にサーレハ政権に批判的な連載記事が掲載された。この連載については、政権奪還を目指す KDP、特にネチルヴァンによる妨害工作ではないかとの指摘も出た[64]。4 月 4 日、サーレハは「バルザーニーKRG 大統領の支持、連載に対して一致した姿勢をとった KDP 政治局とネチルヴァン前 KRG 首相を自分は評価しているが、いまだ内戦思考で物事にあたる者たちがいる」、「我々は改革を実施するため今後も努力し続けるので、

60）*KurdishMedia.com*, 17 November 2010.
61）トルコ国境付近の同地区は両党が関税収入のため争った土地。Stansfield, *op. cit.*, p.99.
62）2005 年の議会選挙で KDP40、PUK39、国会選挙で KDP23、PUK22 の議席配分だった。
63）クルド同盟の獲得議席は、43 議席で残りは無所属 1 議席、所属不明 2 議席。
64）*'Ilāf*, 2 April 2010.

安心して欲しい」と発言して噂されていた辞任説を否定した[65]。

2010 年 12 月 11 日から 1 週間、11 年ぶりの KDP 党大会が開催された。バルザーニーは、党大会冒頭で「党員たちが民族自決権を党の綱領に加えるよう要求しており、この要求は今大会での決定のため提起される」と発言し、イラク政界で物議を醸した。そのため、ネチルヴァンがクルディスタン地域の分離を意味する発言ではないと火消しに回った。民族主義的感情に訴える「民族自決権」発言は、超党派的な、特に若い世代の支持を集める効果を狙ったものであろう。党大会に誰も招待されなかったゴラン関係者でさえ、「自然であり、歓迎されること」との支持発言を報じられている[66]。この党大会でネチルヴァンは、叔父バルザーニーの推薦により全会一致で副総裁に選ばれ、バルザーニーの正統な後継者と認められた。党大会での選挙の結果 KDP は指導部の世代交代が進んだ[67]。

以上のようにバルザーニーは、バグダッドでの新政権樹立に主導権を発揮、タラバーニーとの約束を果たして戦略合意を守り、更に党大会を乗り切った。バルザーニーの勢いはこの 12 月に、一つの頂点に達したといえよう。絶頂の KDP は、落ち目の PUK をいつの日か見限るのであろうか。否。ゴランが PUK のみならず KDP へも敵意を向ける以上、戦略合意は KDP にとって依然として価値がある。そのことが間もなく明らかになった。

（2）スレイマーニーヤでの反体制デモと与野党の対応

1 月 14 日のチェニジアでの体制崩壊以降のアラブ諸国での抗議デモ拡大を背景に、29 日、ゴランは「クルディスタンの為政者たちが、路上の声を無視することを懸念する」としつつ、アラブ諸国で起こる変革と抗議の波への共感を表明。更に党による政府機関への干渉廃止、軍事組織内での政治活動禁止、内閣総辞職、議会解

65）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 4 April 2010.
66）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 13 December 2010.
67）党大会前と比較すると、党指導部の中核である政治局員は 7 人残留、8 人定員増と部分的な入れ替えに留まった。指導評議会は 17 人残留、43 人定員増と大きく入れ替わった。*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 18 December 2010.

散等を含む「7 大基本要求」を与党に突きつけた[68]。ゴランの非現実的な要求に対する与党側の対応は素早く、翌日、バルザーニーは、18 政党の代表との緊急会合で「いかなる変革、改革の呼びかけも法的なチャンネルを通じ行われるべきで、地域の安全を損ねるような手法を拒否する」との共同声明を出して与党の結束を誇示した[69]。 サーレハは「ゴランの要求は地域の民主主義の実験に対する深刻な脅威」、「エジプトの人々は正義、自由を欲し、民主主義の実現を要求していると言えるが、イラク、特にクルディスタン地域の状況は他国と異なる」と反論した[70]。野党の KIU と KIG すら議会解散に反対し、ゴランの急進的な改革姿勢は他党の顰蹙を買った[71]。

1 月 30 日、ナウシルワーンは、衛星放送 KNN に出演し、「ゴランは暴力に訴えない、与党こそ多数決の名の下にゴランの言論に一片の余地も与えようとしないのである、チェニジアとクルディスタン地域を比べると、腐敗、一党支配、失業、低い生活水準、不正な選挙が同じ」と主張した。KRG は即座に反論声明を出して影響を抑えようとした。[72]

エジプト大統領辞任から 1 週間後の 2 月 17 日にスレイマーニーヤでも生活改善、腐敗追放、政治改革等を求める数百人規模の平和的デモが行われた。しかし、デモ隊の一部が、二大政党の事務所へ移動して投石を始めると、KDP 事務所を警備する治安部隊がデモ隊に発砲、2 名が死亡、数十名が負傷した。[73] 同日、KRG はエルビルの KDP 系ペシュメルガ部隊を事態収拾のためスレイマーニーヤに急派した。19 日、外遊中のバルザーニーは発砲事件の調査を命じ、サーレハは県議会選日程についての協議を理由に各党派に緊急協議を申し入れ、事態の収拾に努めた。しかし、20 日、スレイマーニーヤ大学内で学生約 2000 人が事件について KRG 大統領の謝罪を求めて集まり、スレイマーニーヤ市中心部の自由広場（サライ・アーザーディー）でも市民約 1000 人が

68）‘*Aṣwāt al-`Irāq*, 29 January 2011.
69）‘*Aṣwāt al-`Irāq*, 30 January 2011; *Al-Sharq al-Awsaṭ*, 31 January 2011.
70）‘*Aṣwāt- al-`Irāq*, 31 January 2011.
71）*Al-Madā*, 5 February 2011.
72）*PUK media*, 30 January 2011; *Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 1 February 2011.
73）*Washington Post*, 18 February 2011; *Aṣwāt al-`Irāq*, 18 February 2011.

抗議デモを行い、同広場で座り込みを始めた[74]。

デモ発生後、ゴランの KBA 脱退以来となる与野党間の対話が再開された。2 月 21 日、サーレハ、ネチルヴァン、タウフィーク（Muḥammad Tawfiq）ゴラン広報官らが出席した 5 者会合がエルビルで開催されたが、具体的な成果は出なかった。23 日、議会の緊急会合が開かれ、「クルディスタン地域情勢に関する 17 項目決議」[75]を全会一致で可決した。翌日、決議に沿ってデモ隊の要求に対応する特別委員会が議会に設置された。特別委員会は、KIG が委員長を出し、クルド同盟とゴランが同数の 2 名ずつ、諸派 5 名という与野党対等の異例の構成となった。

デモ隊対応特別委員会には、治安回復、エルビルから派遣されたペシュメルガ部隊の撤退、デモ参加者を殺害した者の訴追、生活改善等の要求がデモ隊から出され、サーレハは 3 月 14 日、デモ隊の要求を支持する旨の書簡を出した[76]。3 月に入り、3 野党は治安関係閣僚の交替、示威行動・集会法の改正、腐敗対策法制定等を含む「22 点改革案」を KRG に提示した[77]。外遊から戻ったバルザーニーは、早期選挙実施の可能性を検討するよう KRG と議会に呼びかけた[78]。9 日、サーレハは、17 項目決議に従って、議会での質疑に応じた。質疑終了後、議会はサーレハへの不信任案を反対 67 賛成 28 で否決した。KRG 首相の不信任案が投票にかけられるのは初めてであり、野党にとっても想像を超えた出来事であった。

事件発生直後、ゴランのタウフィーク広報官は、ゴランがデモに参加する意図はないと事前に宣言していた、事態の沈静化のため PUK と連絡を取り合っていると述べて、デモとの関係を否定した。ナウシルワーンもデモ隊による政府機関や政党事務所への襲撃を拒否すると非暴力路線を強調し、デモと一線を画そうとした。[79] KDP 事務所襲撃への組織的関与を認めれば、KDP の報復対象となりかねないため、この対応は当然であろう。ゴランがデモの背後にいたとも思えない。生活改善等 2 月

74）*Al-ʿArabīya*, 19 February 2011.
75）*IKP website*, 24 February 2011.
76）*Peyamner News Agency*, 14 March 2011.
77）*KurdIU Org*, 5 March 2011.
78）*BBC Arabic*, 3 March 2011.
79）*ʻAṣwāt Al-ʿIrāq,* 17 February 2011.

のデモ隊の要求とゴランの急進的な 7 大基本要求は必ずしも一致していない。4 月 5 日になって、デモ隊の要求に政権辞職が加わり、初めてデモ隊とゴランの要求が一致した。同日、野党も改めて KRG 解散と与野党が参加する暫定政府の樹立を求める最後通牒を出した[80]。ゴランは、3 野党党首会談で KRG 総辞職と議会解散要求のラインで 3 野党の足並みを揃えることに成功した。

4 月 7 日、二大政党は党首会談を行い、その後野党の最後通牒を拒否するとの共同声明を出した。与党は 10 日にペシュメルガ問題相の喚問に応じ、不信任案を否決した。19 日にも KRG 内相の喚問に応じた。この時議長の質疑打ち切り動議に対し、与野党議員が議場でペットボトルを投げあう騒ぎが起きた[81]。KRG 内相の不信任案も否決されると、野党は審議拒否戦術をとり、この間与党は NGO 法、倫理委員会法、治安評議会法、アサーイシュ庁法といった重要法案を次々と成立させた。4 月 18 日、治安部隊とデモ隊が衝突し、80 名の負傷者を出した。25 日、KRG は、数千人の兵士を投入してデモ隊の強制排除に成功した[82]。5 月 4 日、バルザーニーは、与野党間の政治対話を再度呼びかけ、対話が再開された。

おわりに

本稿ではまず KRG が二大政党の均衡を前提として独裁的な強者を生まないように形成され、戦略合意によるポスト配分を通じ、二大政党間の均衡を維持することで、政治の安定をある程度実現している点を確認した。一方、二大政党の支配が雇用、進学、ビジネス等社会の様々な分野に及び、二大政党とのコネを持たない者には何ら恩恵が及ばないという現実に対する不満の受け皿として、政党による行政機構・軍事・治安組織への干渉を排する党政分離[83]を唱えるゴラン運動が登場し、過

80）*ʻAṣwāt Al-ʻIrāq,* 5 March 2011.
81）*Al-Sharq Al-Awsaṭ*, 21 April 2011.
82）*Reuters*, 29 April 2011.
83）党政分離の主張は、ゴランがこれまでに発表した政策文書の他、ナウシルワーンの結党時の発言にも見られる。*Al-Sharq al-Awsaṭ*, 11 April 2009.

去2回の選挙を通じて二大政党が同数の議席を持ち続けるという戦略合意の前提を突き崩した点を見た。二大政党支配は、今年2月のたった1日のデモで大きく揺さぶられた。2 月のデモを契機とする現在進行中の与野党間対話を「クルドの春」と呼ぶのは時期尚早であろうが、今年3月にKRGが政党系NGO・メディアへの助成金廃止、政党による公有財産の占有禁止の閣議決定等党政分離に一定の進展が見られた[84]。また、与党は従来以上に国民感情に配慮し、5月31日、KRG大統領、議会議長等公務員特別職の給与一割削減、住民向けサービス事業拡大のための経常経費一割削減、学生向け失業対策予算計上を盛り込んだ新年度予算を成立させた[85]。

今後のクルディスタン地域政治を見る上で当面ポイントとなるのは、（1）2009年に就任したサーレハKRG首相の任期延長[86]、（2）現在も続いている与野党の対話が県評議会選挙の実施と非拘束名簿式代表比例制への選挙制度改革に合意できるかであろう[87]。長期的には、戦略合意は内戦の相互不信を克服するための方便であったとはいえ、時代にそぐわなくなってきている。KRG、特に軍事・治安組織の統一実現による戦略合意の発展的解消が二大政党の課題であろう。ゴランは、デモ再発の恐怖をバックに改革を進めることにいつかは限界が来るのではないか。現在の危機に際して、武力をもつ二大政党がどこまで自制できるか、内戦の歴史を繰り返さずに対話をもって対応できるかが問われている。ゴランは武力を持たないが決して弱者ではない。したたかにメディア、世論、デモを利用し、闘っている。これはKRGが一定の自由を認めているからこそできることでもある。2月のデモを経て、ゴランが既存の体制の全否定ではなく、野党として改革に建設的に貢献することができるかどうかが今後の同地域の安定の鍵となろう。

84）4月10日、PUK系NGOが占有していた建物を政府に返還した。*Al-Sharq Al-Awsat*, 16 March, 31 March, 11 April 2011.　同地域では市民団体の5%が独立しており、それ以外の団体は政党やKRG内務省から財政援助を受けている。Natali, *op. cit.*, p.116.

85）*Kurdish Globe*, 21 May 2011; *IKP website*, 24-26 and 29-31 May 2011.

86）戦略合意通りなら今夏に任期満了となるが、バルザーニーはサーレハ続投がまだ決まっていないとしている。*Kurdish Globe*, 11 June 2011.

87）3月29日の閣議決定で今年9月に6年以上行われていなかった県評議会選挙を行うことになっていたが、来年2月に延期された。10月3日、県議会法の改正法案の審議が議会で始まっており、非拘束名簿式の導入が提出された原案に含まれている。

表　過去 2 回の選挙でのクルディスタン地域での各党派得票数

（2009 年 7 月・2010 年 3 月）

政党連合	年	投票地			合計	議席数 *2
		エルビル県	ドホーク県	スレイマーニーヤ県		
クルド同盟	2009	438968(65.9%)	346720(80.8%)	284809(36.7%)	1070497(57.2%)	59
	2010	458403(66.8%)	332951(76.1%)	350283(41.9%)	1141637(58.3%)	27(16)
ゴラン	2009	114740(17.2%)	14794(3.4%)	315320(40.7%)	444854(23.8%)	25
	2010	103397(15.1%)	23775(5.4%)	298621(35.7%)	425793(21.7%)	8(0)
奉仕と改革	2009	69113(10.4%)	42832(10%)	128793(16.6%)	240738(12.9%)	13
KIU	2010	51065(7.4%)	59969(13.7%)	105188(12.6%)	216222(11%)	4(0)
KIG	2010	62706(9.1%)	3141(0.7%)	79149(9.5%)	144996(7.4%)	2(0)
諸派*1	2009	42946(6.5%)	24790(5.8%)	46112(5.9%)	113848(6.1%)	14
	2010	10304(1.5%)	17550(4.0%)	3215(0.4%)	31069(1.6%)	0(268)
合計	2009	665767(100%)	429136(100%)	775034(100%)	1869937(100%)	111
	2010	685875(100%)	437386(100%)	836456(100%)	1959717(100%)	41(16)

*1　2009 年は、IMK2 議席、左派社会正義自由リスト 1 議席、少数派枠 11 議席。2010 年はシーア派イラク国民連合等が候補者を立てたが、獲得議席は 0 だった。

*2　（　)内はクルディスタン地域外での獲得議席数。

【出典】IHEC ウェブサイト http://www.ihec.iq（2011 年 3 月 10 日閲覧）より筆者作成。

（筆者は国際科学協力室外務事務官）